り

表千家家元奉仕、同門会一門が参集

の献茶祭

粛に斎行しおえ、山野 | 前夜半よりの降雨で、一時心配さ

に漸く秋風が立ちそめ一れた天候も、明けて当日は秋晴

舞と三日間に亘って厳 れた。

麗な翁舞、風俗、浦安|像大社に於て、見事にとり行なわ

祭も、海上神幸の雄壮

年中の最大行事秋季大 | た十月十六日、恒例による表干家

な行事にはじまり、華

る献茶祭が、松風さわやかな宗 家元、即中斎千宗左宗匠奉仕によ

言えよう。敢えて語りたい。

そのまま現実に還るなら、諸君とも同期の桜と を生きる青年諸君の前に、二十餘年前の生命が 青春の悲涌な愚痴話を繰り返すとなれば、今日

か名づけられた人間消耗品になれば事足りた。 知識も、戦斗能力もいらない。桜花とか神風と 砕けるだけ。熟練工の職業軍人と同程度の軍事

だが、国家の命運を荷う青年学徒を、萬死に

役に敵船を襲った神風の再現と、生命の爆弾に

れを既倒に回らす一縷の富籟的夢想は、元寇の よる敵軍阻止とにかけられてきた。神風の奇蹟 枚で得られる人間神風の動員だけだった。

> る武士道とは言えない。武士道は幾多の忠臣烈 追う特攻隊の企図は、我が民族が長い歴史に誇

> > 慧眼に、今日の国情が如何に写ったか、やがて たい」と語ったそうだが、この日本の理解者の 想は述べられない、いづれ後日意見を纏めてみ る。帰国の際感想を求めた記者に「日本は大き だ一人戦犯被告の全員無罪を主張した人であ

く変ったが、私は観光に来たのではないから感

あろうか。パール博士は嘆いたにちがいない。 忘れられた大切な反省の燈はいつ甦ってくるで る外人の観察眼に何と写るであろうか。同朐血 設の促進に熱中している感さえある日本、心あ

今日の祖国の現状を見る時、二十餘年前の悲

戦の地まで遊覧の旅を楽しもうとする日本人、

その真摯なる批判の文字を待つべきであろう。 如何なる意見を寄せるか。 青年達は 刮目して

彼は病体を推して京都に旅行した。遊覧が目

興も 現実は逆行しているとさえ言えよう。と のことは日を改めてなお語りたい。

暴挙に招いた神々の怒りを解く精神の反省も復 はじめ、教育宗教の面を取り上げても、大戦の けたいことがあまりにも多い。政治経済外交を を生きる同期の桜たる青年諸君に、強く呼びか 痛な神風に圧死した同期の桜は、今日同じ青春

あの大戦の末期、物質戦力頓に低下して、こ

は祈願熱祷によっては起らず、頼むは召集令状

島に撃ち出した指導者には、真の武士道を知る

人が少かったと思える。神々の怒りはここにあ

層ビルの林立する東京、その近代的都市の少粧 的ではなかったろう。瓦礫の街から復興して高 き生命を犠牲にして、人間消耗品を続々南西諸

士を史上に讃えてきたが、学徒の骨重絶対の若

の青牛達は笑うかも知れぬ。今青春の開花時代 られる同期の核が、未練がましく現れて還らぬ

護国の英盛と崇められ、武士道の権化と讃え

く、短期間の訓練で物になる能力だけが必要で

の責任者を裁く東京裁判の判事だった彼は、た

先日印度のパール博士が来訪した。敗戦国家

残な暴挙に、同胞青年を敲き込む狂謀は選ばな 絶望の炎獄に、勲功は名のみで生かされない無

かも知れない。

国を挙げて観光資源の開発を強調し、遊覧施

源泉を古都に伝わる日本の心に観ようとしたの

あった。 臨時雇いの学生士官は 敵艦に当って 秀れていた。 もはや身体の強弱は問題ではな 論説

同 期

0 桜

は 語 る

(1)

毛の軽きにおく帝国軍人となったのである。学

は至上命令に動員されて学業を放棄し身を鴻

敗色漸く祖国の危急を告げる頃、多数の学徒

30

徒は一般の徴集兵より、学問技術の哨脳能力は

士道は採らなかったであろう。生命の栄光全く

少しもとどめぬまでの変貌、そのエネルギーの 来ないので、古都の風姿を希望したのであろう

する人々に迷惑を及ぼすことを考慮して、必ず

して批判されるような記録が、残った父母や愛 い検閲を意識し、又滅私奉公の最高モラルに照 同期の桜が出撃前に書き遺した手記は、厳し

二十年間のすばらしい復興ぶり、敗戦の疵跡を の中からは日本の心は容易に窺知することは出

が軍部首脳にあれば、このような似而非なる武

若し大楠公生きてあれば、乃木将軍東郷元帥

会株 社式 井 筒

御

礼

結婚式場用品 福岡支社

毎月 発

·日発行 行 所 行 像 大 社

具、

装

福岡県宗像郡玄海町電話神典 26番 定価 一年 送料共500円

電話 家 的 XOX · 三番 京都市下京区油小路通六条北入電話 68 九 四 五 六電 話 68 九 四 五 六 35)

本

電話 一秋の日はとみに短く、副席終了の た人々に非常に喜こばれた。 々の降雨にも心配なく、参会され 店より寄贈され、日除は勿論、少

らとったものである。四世以後は のみ宗佐)と定まっており、この 刃したが、その後まもなく後嗣を 利休は豊臣秀吉の怒りにふれて自 ならぶ三千家の一で、干家の正統 許されて、二世少庵宗淳、一三世 といわれている。 流派で、裏干家、武者小路干家と 表千家は千利休を祖とする茶道の 宗の字は大徳寺代々の管長の名か 四世以後は、当代まで宗左(五世 (当代) 即中斎にいたっている。

なかで、極く自然にお点前さ が、これは京都市上京区にある表 る。 の名は大徳寺の古溪和尚が利休に 表干家には 不審 権の別称がある

して祭典は無事終了した。

は賑いを呈した。 かな盛装の女性に埋り、終日境内 百花一日にして咲き競う花園かと の茶人で、日常は静寂なる境内も 早朝より献茶式拝観と、副席拝服 みまがつばかりの色とりどりの鮮 れのすっきりした日和となった。 | テント張が七組、出光興産福岡支 頃には既に境内は黄昏に包まれ、 平常の静寂にもどった。

氏、玉屋百貨店社長、田中丸善八 った一千余名の注目の中を参進 員、福岡、大分、山口県より集ま を従え 静々と同門会九州支部会 に、宗匠を先頭に、同門会の高弟 に端坐し、お弟子さん達が見守る 白木の台子に据えられた風炉の前 通り、献茶の式が行なわれた。 約一時間に亘って、茶の湯の作法 氏代表等、多数の参列のもとに、 し、出光興産株式会社会長、出光 家元による献茶式は、午前十一時 慎廢真太郎 江戸時代末まで紀州徳川家に仕え

十三日から十五日まで

れ、参観者一同稲息のうちに、 られ、神職がこれを神前にお供え一千家内にある茶室に由来する。こ 金、銀の茶碗に薄茶、濃茶とたて 式に先たち、午前十時より、清明一おくった「不審花開今日春」の語 殿と斎館広間に於て、出光家、同一からとったものといわれており、 境内は副席控えのため、鉄骨組立 門会による副席が設けられ、午后 | 現在でも庵内に扁額がかかってい する間に区切りをつけ、祝儀を行

七 Ŧi.  $\equiv$ 0 祭

1

福岡

江崎

琴子

シ醤油(株)、マママカロニ(一他関係各位

いを「はかまぎ」女子の七才の祝 して「ひもおとし」と言い、氏神 幼児、更に少年、少女へと移行を 例から見れば、七五三は嬰児より に参詣する風があった。これらの では三才から四才の子供の祝儀と してこれからの成長を祈る 風習 を「おびとき」と称した。西日本 り 美しく粧った親子が神詣りを り、武家時代には男子の五才の祝 う七五三祭りが行なわれる。 十一月十五日、子供の成長を祝 七五三を祝う習俗は古くからあ一家々の生業に関係の深い神々を送 年中行事の一つとなっている。 は、吾が国では正月に次ぐ盛大な る祭りをする日だからである。 しもつきまつり)の日にあたり、 日としたのは、この日が霜月祭 この人生儀礼は、年々盛んとな 七五三祭御案内 宗像大社七五三祭は左記の通り

なうことによって、新しい人生段 階へ登る上での印象を新たにした ものである。亦これを十一月十五 しも一個の人間が死に直面した真情を吐露した なき声の真実の遺言を、今日を生きる同期の桜 ものばかりとは断じられない。文字なき文字声 げます。 十一月十五日(火曜)まで 十一月十三日(日曜)より

の怒りを解く青年の会心の大道である。 えて冒しても。然し、愚劣な狂瀾に青春の生命 ればならない。場合によっては生命の危険を敢 それはいつの時代でも青年の大切な信条でなけ 等主義に盲従して惰眠を貪ぼるよりは、遥かに 中の栗を拾っても、皮相な合理主義や安価な均 悪なるもの矛盾するものに対する反発は、神々 を奪取されてもならない。青春は反発する。醜 した者もあった。 祖国を愛すること、民族の幸福を守ること、 青春よ反発せよ。時に逆流に棹さしても、火

の御高配を賜り、おかげをもち一グ(株)、片木商店(株)ミ 当社秋季大祭には、崇敬各位 |株)、コカコーラ・ボトリン 街

丸デパート、三井物産(株)福 屋デパート、玉屋デパート、大 栗組、西日本テレビ放送、岩田 御礼申し上げます。 る事が出来ました。ことに厚く まして、全大祭を盛大に済行す一ツカン酢中季酢店、西電気福 岡支店、東洋醸造(株)、ニヒーシー、あけばの荘、鎮国寺、 朝日放送、RKB毎日放送、 出光顯産(株)、KBC九州 昭和四十一年十月 宗像大社社務本局 間支店、福岡市下川端町商店 漁協、地ノ島漁協、宗像タク 津屋崎漁協、福間漁協、鐵崎 漁協、勝浦漁協、大島漁協、 野屋酒造、井ノ口酒舗、神湊 造店、伊豆本店(有)、翁酒造 店街、新天町商店街、勝屋酒 (株)、豊村酒造(有)、吉 川端町商店街、因幡町商

业

で、これは僕の教え子で、あの社 日本語の達人「彼は僕の後輩 買って、絆創膏を貼って靴ずれ我 H C大学に入れねばなりません。こ 親戚で。」と、毛ほどの縁故も売 長は僕の先輩で、この課長は僕の しきりに触れ太鼓を鳴らしたがる ってきた。哀れ青春は跛行する〇 慢い濶歩の姿は、まさに涙ぐまし 段はない。小さ過ぎる靴を選んで 方法がある」と教えてやる以外 をして、足の骨を削って細くする 足に、小さい靴は無理、整形手術 **若武者の出陣よりも大変「大きな** 愛は迷走する○若い女の子の休 長いのか、短かいのか、哀れ母性 生、電話で急用に似た相談。気が たまま、唖然。子供はまだ中学 の言葉が探されず、受話器を持っ なりません。どの高校がよいでし め、その予備校的高校を選ばねば の両大学のいづれかに入れるた 草履を買い、靴をさげて街から帰 に、大根足をスマートに見せる手 ょうか。」応符に出た老妻も返事 己れにハクをつけたい気持から、 い努力。遂に堪えられなくなって 朝から化粧装具の心づかいは

福間

尾郷

須恵

言 小雨の中の大樹はやさし

しオレが死ぬようなことがあれば、日本の文化 は五十年おくれることになる」と僚友に言い残 んな愚劣ないくさで死ぬわけにはいかない。も 諸君は読み取ってくれるであろう。中には「こ 斎行致しますので、御案内申し上 の虎の巻には に、陣どるは、数名の公務員「課 る〇石を集めるストンパパ、鉢を 析する作戦会議らしい。役人出世 Aさんから手を廻す」と、敵を分 大丈夫。部長は難物だが衆議院の 長はゴマカシがきくし、吞むから ダツの上がらぬ粗品。哀れ誇色は りものにするご当人は、概ね、ウ 濫発するO東京 行特急の食堂車 公僕精神のかけら

貴重な人生を歩むものであろう。

## 枝さくるまでに荒れしは昨日にて 中の人に礼高く言ふ あやにくに動かぬ車押してくれ街 像 中村 岡

め、その採用指定校のB大学か、 際もなく、ただ知っているだけの 愛するサポテンママが合作の小庭 人「子供を将来A会社に入れるた 「無理をすると神経痛の賞与が出 東京から電話、相手は親しい交 タ立は大鳴あたり雷なりも遠くに 遠く住む弟よりのオルゴール今朝 御神威栄ゆる田島放生会 咲いて虫の声聞く 去りてひぐらしの鳴く 洩れてなる「乙女の祈り」 かゝりて座敷に影落つ ゆたかなる海幸田の幸目にみえて 城山はいま一刷毛の雲 萬象は動きて止ますさきに見し、 に座して城山を見入る ふるさとの赤間駅前の同窓会正座 背負はれしまゝの姿勢で睡る児の し蟋蟀の畝荒しをり 秋蔬菜の芽生え楽しむ朝にして情 秋の月くまなく照らす冠りに七草 かな日ざし労務者の身に 公園にいこひの一時毛糸編むのど 来栄え高声に語る 田回りて家に帰りし長男が稲の出 を消しし病室の布団を照す 月光は夫の部屋にも射し居らむ灯 安かれと祈る稲田に風さわぎ秋の 手足を直す息をころして 一夜のいねがたかりき

津屋崎 麦野

時雄

**若人が憧るるらむ山 襞** に並ぶ新 内そぞろ歩きす たわやく破られてをり若き等に吾 築群幸住むらしき 秋祭り昔の友とかたり合い広き境 宗像 吉留 小野角次郎 白木うめの

虫すだく良夜なりけり望月の松に たたかひに散りし乙女ら偲びつく 花を手向けてしばしおろがむ うけし子等は何処に 武丸立石

しめ那覇の街行く 武 丸 立石ろせの (以下三頁につゞく)

## 繁紀 宗像大社 十月九日 献詠歌会詠 於社務所詠草到着順

草

吉田 信夫 顕つ庭に佇ちて名を呼ぶ 帰省近し子を待ちあぐね木犀の香 宗

れではるか拝がむ 放生会神の恵に苦しみをしばし忘 福岡 永島 高橋

幸

太き幟立てし神霊船守ること粧ひ れぬ此の弱き脚 故里の祭り望めど秋の空今年も詣 し舟のひしめき渡る 宗 像 有吉 春子

名

残 竹原

ĮĮ.

宗 像 藤崎

辰子

御座船の行く海はるかに船団の守 りもかたしみあれの祭 大島 越智 治子

村山田 吉田佐市郎

孫が出来ればこれも亦いとし上孫 朝夕に見るも飽くなき豊稔の門 田の稲は黄金色ます えの愛減らすことなく 福 間 井原 吉田佐市郎

福間森

八蔵

勝浦

永島

計七

学寮へ戻りし吾子の蔭膳に栗飯よ 七浦の御舟の供奉にいてましのか みわさゆかしわたつみの秋 福 香椎 間 瓜生 織田 朝枝

思ふどち集ひて待ちし仲秋の月は そひ明月を待つ のぼりぬ笹の葉越しに 名 島 久保

宗

像

紫の小鉢に咲ける碧瑠璃の野草の 花は小さく可憐 大井 大井 安部 安部 静子

宗 像 伊規須ゆき

移り来て村の明け暮れ何時しかに ほのと咲く芙蓉は秋の花ならむあ 吾が故郷となりて稲刈る したに花は夕にはしばむ 大 井 吉田 杏子

吉田

占部

由久

曼珠沙華一群真紅夕映えぬ遊びほ 月しろ静かに昇りぬ 大 井 木原

宗像

小野

遠賀

長畑

房江

銀いろに稲の穂波の限りなし望の

大 井 吉田

(ひめゆいの塔前にて)

三日

自由と、平和を愛し、文化をすす

明治の偉業を想い、今日の平和

の和日に関する法律によって、「一祝われ、戦後、文化の日となった

せられる儀式がある。

昭和二十三年に制定された国民

昭和二年以後は、明治節として この日は、明治天皇の御降誕日 十一五日

月次祭 文化祭 午前十時

十午

時前

術祭・・国民体育大会・なども、 文化勲章の授賞を行い、また『芸

この日にちなんで行なわれる。

十一月のまつり

める」祭日と定められた。 **被麻が目にしみるよ** 

文化の発展に功労のあった人に

関を祈念する祭典を行う。

二十三日

生産感謝祭

碧く、緑の榊、白い に空は、あくまでも 解かに 渡御される。 本殿奥から楼門へと

(中津宮を出御される両宮神璽)

数日来、晴れ渡っ

祢宜に捧持されて、 は葦津権宮司、養父 **沖津宮、中津宮神璽** の榊を捧げて先導、 海

海 0

の出御である。

宗像権祢宜が抜い

市に着く。

福岡市の知人来訪の節、平戸に

る。

百米の海峡は渡航十三分で、平戸 出入も繁く活気を呈していた。六 平戸口駅で下車、渡船場まで徒歩 流として、何か文書記録を持って 住む宗像家が、宗像大宮司家の末 地をなしているので、周辺漁船の 十分、対岸の平戸港と共に漁業基 町の県社宗像神社の参拝視察と併 いると語ったので、北松浦郡田平 同家を往勘した。

面積約一七〇平方粁、人口は四万 の都」と喧伝された由緒深い町で 平戸島は十六・七世紀には「西 佐世保から、松浦線で一時間余 所勤務の公務員、刺を通じて、客 室に案内された。

に足らないが、多くの史跡や、秘 である。並べた額に見る功四級金 る。次が新三郎氏広で追記に「後 達者の人多く、家は富裕であった められた物語りの遺跡を藏してい 垂れて敬意を表した。聞けば当主

打った。 痛哀切の最期を語るかの如く胸を<br />
付朝鮮御陣之御供被仰付」とあっ 欄間には、明治時代と思える短

姓を名乗って、最初壱岐に移り、 松浦藩に仕えて、朝鮮征伐に出陣

の祖父素介氏が風流人で、菖蒲の したらしい。後に平戸城に出仕し

と名乗る市内とは云え、交通不便 冊二十五枚の扇額、弘化三年生れ 十分の人里離れた山中、戸石川町 訪ねた宗像家は、港から徒歩三

の地で、周囲に家は見当らない。

た英麗と直観したので、深く頭を由で、記念の遺品である。 の特攻隊員で、大戦末期に散華し 人の写真を仰いだ瞬間 学徒出陣 壁に掲げられた飛行服の若い軍

の実兄芳郎陸軍少尉で、去る二十と、内容これと略同じ系図断片数 宗像に改めた由が記されてある。 を駆って宿命の青春を爆砕した人 頭で、本国生国筑前と註記してあ 獨勲章と軟六等旭日章が若桜の悲。二加々石衛門ト改是より御当家一が、壱岐の宗像や筑前の宗像一統 年、四月七日、沖縄に於て、愛機 枚を見た。許斐民部少輔氏光が筆

録は伝わっていない。対岸田平町

とは没交渉で、宗像大社関係の記

宗像大宮司家滅亡の後、許斐

当主は良三氏で三十代の平戸市役 頃、同好者を招いて歌会を催した て、代々祐筆を勤め、家禄は二十 に收獲なく辞去した。

# 談宗 話室像 松浦宗像神社と平戸宗像氏

A.

宗像氏系図と標記する系図一巻
平次左衛門長喜に至って馬廻百石 石から六十石、百石と加増され、

代が遺した話によると、代々文筆 国情緒もわずかに残されている街 山村僻地の鎮守の森に、元禄を刻 今春八十八歳で、死去された先 ての繁栄など偲び、長崎に似た異 民生が安定していたのか、他にも に宿る。

翌朝、平戸港を発って田平町に

年同社から由緒がわからないので い。境内数白坪は手入れもされて の県社宗像神社とも関係なく、先 ある県社であるが、荒廃の感が深 参考資料を探しに来たそうで、他<br />
居らず、神さびた社殿も清和天皇 戸城亀岡 ない荒れ方に、同祭神に恐懼の心 が、旧制の県社らしい姿とは言え 車を駆る。郊外の川裾に祀られて かなりの年代を経たものと見える 粗末である<br />
数本の障や、銀杏が の頃創立と云っても、まことにお

て明治に至っているのもある。

んだ石鳥居や、燈籠をよく見うけ

の基地として、又闡英貿易港とし 年号は元禄十三年。この頃が最も 名松浦党の活躍、秀吉の朝鮮出兵 かった。古びた大鳥居に刻まれた の大名に仕官したらしく、許斐 ンダ商館跡等を巡歴して、海賊大ねて、社情を聞く意欲も起こらな まで、平 神社オラ 持ち禁じ難く、さりとて祠職を訪

上陸、宗像神社の位置を訊ねて、 平戸宗像氏には直接の関連はない 者が奉迁したか、いづれにしても 民が創祀したか、宗像地方の移住 ようである。 この神社は海洋関係の近隣の住

族の一流には黒田家の臣下となっ 人物は、宗像の地を去って、諸方 宮司家滅亡後、力量才幹の優れた されて、家柄もよかった様子。大 従って出陣し、家禄も次第に加増 して征韓の役に加った松浦藩主に 見えるように、小西行長の軍に属 平戸宗像氏は前述の系図の中に

50

### 三百五 + 余隻 が 参 加

の為、整列している。

この為、小舟、モータボ 珍らしい。

ートの類迄小旗を立てて

今年のような平穏な海は るのが普通であったが

参加している。

地ノ島を間近に見て

沖津宮、中津宮神墨出御祭が執 て、森然とあがる花火を合図に、 去る十月一日早朝から玄界難に於 れている宗像大社海上神幸式は、 拝殿で、大太鼓が力強く打ち鳴 午前九時、大島中津宮境内に於 秋季大祭のプロローグともいわ 平常広く大きな港内も、大小の漁 響かせ、大漁旗、紅白の吹き流し」に岸壁を離れる。次に御座船二隻 会の方々がお供をする。 |うである。御神璽の後には、<u>零替</u>|会を始め、村中の人々がおみ送り 林立し、五色の旗が靡き、壮観で 船でうめ尽され、多くのマストが 等を付けて待機している。 船が集結、いずれもエンジン音を一先導船がするすると、すべるよう 大島港内外には三百五十隻の漁一花火が海上に出航の時を報せる。

巡

らされる。 行された。

> 付けて続く。天気晴朗、海上は鏡 大社の大幟りがはためく、この後

の吹流し、五色の大漁

と思われるばかりの船絵巻である 旗、源平の昔もかくや い船体、緑の若竹、紅白 海は紺碧、空は青く、白 船首を神湊港に向ける。 船団は大きく石に旋回

やがて神褒の海浜が迫り、小中

のように凪いでいる。

に供奉船が青竹に紅白の吹流しを

が静かに動き出す。国家鎮護宗像

わたる。玉串奉奠の後、愈々両宮 津権富司の奏する祝詞が低く響き 氏を始めとして、関係者百余名が 参列、養父袮冝の修抜に続いて葦 大島中津宮奉贊会長河辺嘉十郎 座船に奉安される やがて、両宮神璽は埠頭から御

RKBを始め、各新聞社の力

を切る音がする。波止場には奉賛 メラが廻り、しきりにシャッター

社機、ヘリコプターが船上を旋回 する。 を東に向ける。折から各新聞社の 大島海上で、船団を整え、船首 編輯子、西鉄調査室、記者等を

の警護に当っている。 れてカメラを構える。 保安庁巡視船がこの盛騰 乗せた報導船が船団を離 む肌に心持よい。各船共 船団より五百米離れて 洋上を渡る秋風は汗ば

波を乗越えて、巡幸す 時化で海上が荒れ、大 例年、この季節は幾分

を感謝し、あらゆる産業文化の振一大な祭儀の一つである。 午前十時 念する祭典を行う。 し、産業文化の発展を祈 して、今年の農作を感謝 神社では新穀をお供え

る。

奉納、午後二時より献茶祭斎行さ 前十時より斎行、風俗舞、浦安舞

和印刷

雷話

うた。依て御弟宮は仮に皇位にお

三 日 秋季大祭第三日祭、午

夜の参詣者も多く賑う。

二日 秋季大祭第 祭第一日祭斎行。 十月一日 秋季大

所

方がおられた。

一日祭、翁舞奉納、

綜合印刷

農業日本の祭のうちで、最も重 戦前の新甞祭をいう。天皇が新 十一月の交通訓 ゆずり合う心で 無事故の記録 きずこう

祭をせられ、また親しく新穀を食 穀を天神地祇にすすめて、感謝の

(すべるように進む御座船)

七

日

宝物館一年一切経収蔵



力団体七浦漁協に御礼挨拶の為出 五 日 楠本祢宜、秋季大祭協 宮司外四名出張す。

使を御差遺されて国家鎮護の祭礼

さて、筑前国宗像宮は、毎年勅

を執り行わせられたが、当時の世

天皇と申し上げる、という。 れた。これによって御弟宮を一日

宗像神社秋季大祭奉仕の為、

久保

宗像大社御用

日 徳山出光興産製油所内

行。葦津権宮司以下全職員奉仕、 出光與産福岡支店長他三名献茶祭 八 日 佐世保海上自衛隊山岡 為既務課長外一名来社。 より、表千家々元献茶祭打合せの 一五日 月次祭午前十時より斎 末安爛託参向す。 海将補参拝。 箱京都より到着す。 福岡出光支店 打合せの為来社。 三日 一二日的原神社祭斎行さる、

宮司中津宮へ出向す、

学生、多くの参観者が見えて | 途に就く。時に十一時、一時間半 来る。神湊海上で、船団は一時停一に亘る海上巡幸であった。 編成を解いて、各浦を目指して帰 離れて入港する。この後、船団は に斎行出来た事は、七浦漁業関係 喜こばしい。昨年にも増して盛大 年々この盛儀が盛んになる事は 一六日 名参拝す。 見舞の為福岡に出張す。 二二日 葦津権宮司、福山住職 移転の件で福岡へ出張。 団体参拝、内山緑地婦人会約五十 一七日宮司、権宮司、 一時より斎行さる。 表千家献茶式、祭典十

大鳥居

査に論拠をおくので れてゆく。しかしこ 與亡、変転極りない

の物語りは、史実調

戦いを中心に展開さ

類まで参考資料とし

て取り入れているの はなく、伝説口碑の

最初にお断りしてお で、正確な歴史事実

とは言えないことを

止、先導船、御座船三隻が船団を

さる。楠本祢宜、城戸権祢宜奉仕 二四日 教育大学 開門式流行 開催さる。 す。宗像都町村長会清明殿に於て

者、並びに関係各位の領協力の賜

ものと深く謝する次第である。

社務日誌抄

許斐家の創立

たるといわれている。

させ給わず、これに反して御弟宮 に重きをなして行くことになった る、みやこぶりの地名が残ってい 九代宇多天皇の皇子に醍醐天皇の王が曽て一日天皇を許されて御身 聖代に賀表を呈する為国使が来朝 御弟宮の清氏親王と申し上げる御の飾りをなされたのによるという した。御兄宮醍醐天皇は容顔優れ、髪家は宗像家の藩屏として神領内 その頃、支那の唐朝から延喜の 伝える所によれば、人皇第五十 ル」と読む。そのわけは、清氏親 ノミと読むこととなった。 ただし許斐の文字は和訓して、コ かくて本家は宗像を氏とし、許 許斐は訓読すると「ユルシカザ

つきになり、
唐使に御対面にならり
戦国の世を迎え、
宗像家は
宗像 は容貌まことに美麗にわたらせ給のである。 いは興り、或いは衰えて推移する 党を率いて専ら合戦に従事するよ かけて領知高七十七万石程の大領 その最も威勢の盛んな時は筑前、 うになる。その間、宗像の一族或 筑後、豊前、肥前、五島、壱岐に 更に後世に至って吉野朝時代よ 衝にもあたっている。 豊前及び筑後に対する軍事的要

章浦柴舟

福田長庵画

め に 宮を「清氏」と御改名の上、宗像になったこともあった。 大宮司として御下しになられたと

は

U

神事に奉職すると共に、神郡宗像 たが、その中に氏章という人があ た。その時に許琴氏を名乗ったと 大社を中心に挙郡結束して外敵のなり、清氏親王及びその子孫が代 を宰領し、領主としての治政の権った。この人を今の許斐岳の麓に 宗像と呼ばれる宗像一円は、宗像 宗像大宮司は祭祀の長官として 中世天下乱麻の戦国時代、神郡 いわれる。 々社務をとることになった。 それ以後、勅使の御蹇遣がなく 嗣がなかったので一代で断絶した 清氏親王には御子が沢山おられ 年)に許斐岳を居城として筑城し

その後、十五代宗像大宮司氏平が

清氏親王の次子氏章であったが後

許斐家を最初に姓としたのは、

大宮司受耺中大治五年(一一三〇

侵攻を禦いだ。

を握っていただけに、異色の盛衰 お移しになって「許斐」の姓を与 その中でも、神郡の要害として 許斐左馬太夫という人の始祖にあ えられたといわれ、これが、後の 補修し、この時に許斐城が正式に いわれる。十六代氏宗も許斐城を 宗像本家出城となった。 その子氏元の代に至って始めて

る。この氏元が許勢 家の初めといわれ 宮司の臣と称してい をとり、自ら宗像大 に対する分家の立場 はっきりと宗像本家

許斐一族累代の事蹟

山と、その山頂の城 南郷に屹立する許變

**岩を中心に活躍した** 

た数々の血涙の秘史

神郡防衛に尽し

を遺している。

この物語りは治乱

る。 のない時には度々写 後代に至って後嗣

らない。 斐家が宗像家の藩屏 先にも述べた通り的 ぎを迎えた。これは 像本家に請うて世継 大丸」というから、 をなした配左に外た として神領内に重き 許髪城の場所は

のことであろう。 旧王丸村は古く宗上 今の宗像町王丸部落

村といったという

う許斐一族の菩提寺があり、今で とが土地の八幡宮の棟札にしるさ があり、平らにならしてある一 への登り口の右側には「御館跡」 も王丸から許菱岳頂上の王子神社 れている。また近くに宗生寺とい

り、また地形は郡の中央に位して ながら宗像大社五摂社の一つであ 画の前面には巨大な燈籠がある。 成り繁栄したらしい。 るところがあり、往時に於ては可 王丸地区には衣装町などと呼ばれ 許襲山頂にある王子神社は小祠

(つかく)

### 宗像の秋を飾る大祭は、海上神 H 曜 昨 H 年 第二日祭は、午前十時に斎行。 لح 12 重 b な 増 0

す 賑

42

会図と共に一名宛馬場を西より東

している。

に向って駆け抜け、的に向って先

に於て盛大に挙行された。 Oまをお迎えして、田島の辺津宮 された。 又恒例の 新は福岡 喜多 十月一日、正午、三宮御神曠が一折から日曜日の為、交通安全の祈

本殿 奥深く 鎮座されて第一日祭が一願車等で駐車場は満員となり、小 流社中によって厳粛に奉納された一矢が射られて雄壮な流鏑馬神事は 氏子からの奉幣は立石昇氏が奉仕 学校校庭を臨時駐車場 り、近郷には神事に出場する馬が ず甲矢が放たれ、再び繰返して乙 終了した。

今年は、農村機械化の影響によ

の擬銘帯の擬銘としての字形は、

ず、県道に長蛇の列を一が、総代、氏子の熱意と出場者の 事、中学校対抗相撲大 会等諸行事が催され つくる一時もあった。 この他、流鏑馬神|滞りなく執行された事は誠に喜ば 流鏑馬神事 好意により、伝統あるこの神事が 少なくて流行の有無も懸念された しい限りである。 騎主並びに馬主は次の通りであ 騎主

式の型に則り恒例の如 時、境内馬場に於て古 く執行された。 は 秋季大祭流鏑馬神事 当日、秋雨けぶる境 十月二日午前八 中山 純一 際美

> 深田 深田 渡辺

勝美 正信 和夫

当日は相僧と雨にたたられ、最

優勝一管原正信(津屋崎)

三位

"" 花田正幸 (福

間 央 位 一年の部

稲水幸一 (津屋崎) 徳永正義(中

境内駐車場を 埋めた

名の選手等は、応援につめかけた

二年の部

優勝中山康弘(城

海山

一位 早川祥三 (玄

石津赣裕(津屋崎)

数百名の級友の大喚声の中に熱戦 れでも各校より選ばれた約百二十 悪のコンデションとなったが、そ ーム参加の上盛大に挙行された。 に於て郡内中体連主催により九チ 大会は、十月二日十時境内相撲場

参拝車

を繰り展げた。

尚、入賞者に各々宮司楯、出光

長楯を始め数々の賞品賞状が送ら 旗、KBC旗、県議楯、氏子会

三年の部

" " 七田裕之(玄

迤

れた
成績は次の通りである。

三位沖 悦夫(中

央間

二優位勝

中央 中学校 津屋崎中学校

河野幸人(玄海) 山本祐伸(津屋崎)

話

題

の

新

車

をみる

(24)

起る現象で、この時はプラグキャーい。それと同時に制動性能も重量 がついて、電気がアースする為に一雨の日でもスリップの危険が少な はプラクキャップシールに水蒸気一るため、タイヤの接地性がよく、

ップをはずし、キャップシールを一や、車輪の割合に対しブレーキド

ラムが多きいのですぐれている。

また燃料タンクは容量が三十一

変らないのは非常によい。

ブリカ八〇〇の巻

乾いた布でよくふいてやればよい

以上の点をよく理解していれば

御弓、忌矢が渡され、「始め」の



奉仕された浦安舞が毎年の事なが一が立てられ騎主三名が盛装を凝ら 斎行された。<br />
氏子中学生によって<br />
内三百米の<br />
馬場三ケ所に<br />
新筵の的

夕刻には、露店も出そろい境内

ら色を添えた。 円は夜店で埋まってしまった。

玄湘町田島

馬主

秋季大祭奉納第九回中学校相撲

(個人)

"

玄海 福間

中学校 中学校

中学校相撲大会

丁度土曜日であった為参詣者も多 足馴らしをして西側に待機した。 して各々神馬を引索して参進、修 午前八時、騎主に神前に供えた

### 宗 像 宝 大 社 宝 を 物 訪 館 ね

7

国鏡においては絶えてないことで 図象のない禍文を使用するのは中

ていたのであるが、この添文の意

一がら周文の弧線の中には朱(丹)

鏡 卷

始まり二本の波文帯を丁寧に刻み の鏡であるが、完形を保って出土 鏡背文(裏面)は、素文帯から この鏡は、鋳上りのまずい凡作 形方格四神鏡 線上にはなく、漫然と配し刻んだ 形は、前述の鏡のようには等対角 と思われる字形一個と計一〇個の いうまぐれ当りで文字になったか 九本になったもの二個、「由」と 字形が刻まれている。これ等の字

もの一個、「王」の字が無意味に 口」を忘れたのか、あるいわ「五 このL・T・Vの字形の間の福 われる字形五個、「吾」の字の「角度等も思いくに刻まれている 内側の擬銘帯へと重ねている。こしように見える。 」の字の「一×」の字形と思われる 「山」の下に「几」を書いたと思一雑に刻み、それぐに長短があり 無視され、ただ禍文を無意味に配 文は、すでに虎や鳥の図象は全く L・T・Vの字形は整わず乱

重なったものらしい横線が五本と|渦文や弧線の文様は元来、 用され 添文として使 前述の鏡等のように ある。日本における他処の出土の 土した鏡にその例をみる。 仿製鏡では、山城国西軍車塚に出 小鏡に顕著に現われている。 珠文鏡や乳文鏡(後述)としての しかしこの鏡は、凡作でありな

鏡である。

二一・五センチ

五ミリ



社 員 同 参 列 0 6 ٤ K

> 戸の前の招鑒の花 うつしみに神の伝説ききており岩

神の旗渡り来つ

宗

像片山

海鳥の巌に群るゝ夕凪をみあれの

粛に斎行された。この大祭は春秋 整備された製油所内を、古式豊か一た。 中、一大庭園を思わせるかの如くと云った如く、活気を見せてい 神前にて熊谷岳次製油所長以下三 防難は鏡の如く一面被静か、遠く一坐す御分社の大祭が春田義一油槽 社秋季大祭は十月五日の嘉日、厳一され一四方の浦々安らかに波立た に大浦油槽所内に鎮座ます宗像神 かの如くうららかな小春日和、周 まず徳山製油所に鎮座ます大神の 九州の山々をはっきりと見渡す事 しあるが、当日も祭礼を祝福する 余名の社員及び来賓の参列する る程であった。定刻九時、 斎主久保宮司の祝詞は力強く奏上 な雅楽の音に先導され、 女による浦安舞が奉納された。 ぬ如く、製油所の安泰を祈って巫 宗像 神 社. 祭 祭員昇剛

船も父多く、十三万トンのタンカ された。当日の徳山湾は行き交う 所長以下十余名の参列の中で流行 所の天然の美にかこまれた高台に トの五万トンタンカーが入港する 一入港中、それと前後してソビエ 引き続いて午前十一時大浦油槽

築 完

と言った類のこ

成 玄海の味 • 生魚料理 な

莊 宗像郡玄海町神湊電話 神湊 56番

れたせいです。

が近所の子供を

る。手光河童が 迷惑をしている からかって困 人の尻子を抜く

る仕様に改められればシートは完ています。よく見ると江口河竃が っているのを、自由な角度が選べ、江口の往還のあたりで土煙が上っ 又、新車時の馴らし運転の速度制 人あたりの広さが、中型車と余りす。強そうな子供がかかって行き 壁といえるだろう。 また坐席一 子供を相手に角力をとっていま 背もたれの角度調節が三段階になた。流れに乗って川を下りますと 匹もの同じ河童になります。子供 ので不良何童 退治 にでかけまし 良かったなあ、最近は食いものも とです。「昔は ますとすぐに分身の術を使って何 よ、まあいろいろあらあな」さり 減って、河童も思想が悪くなった とて放っとくわけにもいきません

ら頂けばと、少しは臭くありまし そうだ」これを聞いて喜んだのは 一吉田の旦那が腹痛で雪隔通いだ 宗像伝説 其の六十五

像 河

人手が不足したので夢人形を作っ なんでも前身は藁人形だそうで大 その昔、御前の浜(現在の東参

りしていますので領内一円の河童 以来河童に仲間入りをしたのだそ ぬ顔で甲羅を干しています。実は その長太郎河軍がこれはまた浮か ほど油をしぼら からからになる うです。何分年が年だけに世故に 最近の監督不行届で頭の皿の水が 今日大宮司の館に呼びつけられて の元締めを言いつかっていました て手伝いをさせ、工事が完ってか とけた長太郎河軍は再び水に飛び 一目散に近所の畠へ駅け込みキュ

みのり近き稲田遥かに移りゆく雲

深

田

中野

節子

(一面よりつづく)

鉛高

一・〇三グラム ・ニセンチ

の影ありて案山子立つ見ゆ

田

島白雲

ると思って知り の力を借るに限 頭を下げて人間 ら俺の手にはか ろ素早い奴だか ながら考えま い。ここは一つ かりそうにな 光河童はなにし した。今度の手

屋吉田某の顔を想い浮べました。 た。敵を欺くには先ず味方から この風変りな頼みを聞いた吉田某 ユを飲みました。 は頭をひねって作戦を練りまし と、その日の夕刻少量のヒマシ

たが夕刻から忍び込んで今や遅し なら気を許しているだろうし一番 無防備のところです。これを下か 手光河童です。なるほど雪隠の中

限がメータに刻印されているのも が困って泣き出せば手を叩いて喜 結論を要約すれば、小型車の中で郎河軍は子供の一人を呼んで策を 小家族の人々が使用するには最適一物だからな。それから奴が術をか 授けました「いいか先ず畠からキりました。」とたと黒い手をさ けたら目の前にそれを投げ出して 使いやがって」とつぶやいた長太と吉田の旦那がトイレに駆け込む やれ、どうせいやしいやつだから 拾い食いするにちがいない。そこ ュウリを取って来い奴はこれが好 んでいます「ちえ、ちょろい手をと待ち構えていますと、どたどた らされた片手だけの己が姿を見て じ切ってしまいました。あわてて す。むんずとその手をつかんでわ べたところ、そこは居合の達人で や、御承知のようなスタイルにな 入れ、河童流の接骨術と交換に自 前非を悔いて後日吉田某に詫びを

# 1

日

昭和41年11月 1 のハゼの喰いが目立つようになっ ハゼは春から秋にかけて何時で 最近朝夕の冷え込みが続き的川

から三月初め頃までに産卵するの 月中にかけてが最良の釣季である 水門が落されて十月中旬より十一 それにこのあたりのハゼは一月

水の澄んだ日には上流にむかって のがよく見える。 がよく釣れているが、今年は牟田 至る両岸、例年玄海中学寄りの方 尻側もかなり成果が上っている。 一斉に頭をそろえて整列している

から十五種と形も整っている。 で、丁度、卵を腹一杯つめこんで | 適当な場所に軽く振り込んで、下 | い技術も要らないし、 道具も手近 | と同じく空冷エンチンを採用し、 程度、ウキは無し、錮は玉二号、 流より上流に底を引いて二三歩移 糸は三号、ハリスは二号、十五糎 釣竿は、やく軟調の二間半、道

(3)

動場は 玄海橋より 下流五月橋に 一あるので 直ぐにあわせる。

動させると、コツコツとあたりが

店に「ハゼ釣針」としてハリスを 針は、流線型の五・六号。釣具

かなもので間に合うので、天気の た時、五月橋下で簡単に掘れる。 用いてもよい。ゴカイは汐の引い 又、ソーセージを 五 精角に切って がとけ易いので注意を要する。 とにかく、ハゼ釣りはむずかし 餌は本虫・ゴガイ・川エピ等、

III ゼ

つけたものもあるが、これは結び

い車である。

|よい日など家族中で釣を楽しむの| 計を行なっているので、動力機構 二気筒のシンプルなエンヂンの設 の故障が少ないのは、他車より優 ドイツのフォルクスヴアーゲン

ってはすで ーナーにと て以来、オ 七0000 この車は れている。また空冷エンヂンは水

になじみ深 で発売され一を必要としないので、スタートが 冷のように長時間のアイドリング 必要なのは空冷の利点でもある。 早く出来、冷却水系統の点検が不 しかし、この反面、エンヂン音

ターターは余りよくない。

りが悪いという人があるが、これ一る。また低圧タイヤを使用してい も始動時の点火が少ないので、ス 定感については、専門家の間でも が高いことや、オイルの消費が多 いのは、空冷の欠点と云えよう。 また雨の日にはエンデンのかか。はど、大地に吸いついた感じで走。で、長距離ドライブの場合、休養。ので一応満足出来るのではなかろ。をお前が後から嫁とばせ、面白い 尚二気億エンヂンは四気億より

| カは、ロードホールデイングの安 | が標準装備になっており、前席と | の車であろう。またこのクラスの

あるが、二 関する問題 はまづある 性能の点で 次に走行

エンヂンに

ユーバブリ 定評のあるところで、高速になる一て、ベットのような状態になるの

に至る迄、割合親切に出来ている

一するのに便利である。欲をいえば

次に室内をみると、デラックス

な自動車であり、通勤や、通学、

は、経費が一番かからない経済的

|後席のバックシートが互に連結し | 小型車中では、路装、其他細部 仕様はフルリクライニングシート

リットルであるが、リッター走行 を二〇キロと考えても、一回の容 かさなって他車よりも長時間走る 回給油すれば、燃費が伸びるのと 量で六二〇キロも走れるので、一

親切である。

以上、主なる長短を述べたが、

ことが出来る。

るのは仿製鏡の一特色で、それはては意をそそいだことが推察出来 味を忘却して主文として使用されをつめた痕跡があり、保存に関し 面で紹介する鏡の中で最も厚手の 製作の工具は五個ぐらいでこの

宗

童

山人 はたけているし、氏素性もしっか ろと前につんのめった江口河童の るものを食って暮らせと言われて中からよだれを垂した江口河軍が ふ年老いた河薫が住んでいました。「やい今度は俺が相手だ 道ロータリーの所)に長太郎と云 ウリを二三本懐に入れて帰って来 ら人形を釣川に捨て、そこらにあだしたからたまりません。白煙の て例の分身の術を始めます。その なり五体は萎えてしまいます。 ました。これが河軍の泣き所です 頭の皿からたらたらと水がこぼれ キュウリに飛びついたとたんに子 目の前に大好物のキュウリを投げ 」と江口河道に組みつきます。 皿の水が無くなれば全身土気色に 供が後から蹴上げました。よろよ 心得たりと江口河軍が白煙を上げ 江口河童のあわれな最期を見と

こみ川をより

合いの手光の圧

かった。とこがいいかといえば、

端居して寄れば句話旅ばなし

井

重即

方にも世間から爪はじきされる

(4)

詠

宗像大社献 俳句作品集

(星)

むさし野の名残 初紅葉して築山の人去来 郷 果あるすまい 小野 花居

岩風呂の丸き石澄み紅葉浮く さぎ草の花びらひそと夏の雲 " ル吉田 吉田 杏子 和子

たことを覚えている。

ばくは子供心にも嫌な気がしてい

秋の夜叱雪はいつも母が言う 玻璃戸よくみがかれ秋の夜が重い 津屋崎 田中 哲二 鶴 美津男 に成る人が来て、なんで私が親孝

月の窓彫刻刀の箱開らく 聞きなれし声近より来虫の闇 サポテンの花の上なる沖かれて " " 占部 河童 " 岩見佳代子 " 井浦 良介 阿部真佐子 からないが、子供心に、この人は そのとき、ほくは理屈もなにもわ ないかというようなことを言った。ち子供も、ぜいたくをしたら非常 ろうね。親が勝手に生んだんじゃ ことを言った。おばあさんたちが 日ごろその人をきらっていたから、ぼくの両親は一生懸命働いてぜい 行せにゃならんのかというような

**壷おいて秋夜のしじま極まりぬ** 財より小さきくしゃみ夜半の秋 〃 〃 勝田 光 は、なんかといえば、法律や属理 と思ったことがある。そういう人 るというのは、なんという人だ、 なんという人か、親孝行を否定す 屈をタテにとって横車を押すんだ

詩

で堂々たる主張でもなければ、筋

生の基礎をつくった。これは、ほ

も通っていない。そして、あれが |くに対する両親の非常な恵みだっ

な。いわゆる三百代言的な行き方しく、というこのことは、ほくの一

一母の姿が出てくるんだよ。せいた

宗

ウカト思フ。

此地由来瑞気辺 尊厳斎事感神秘 彩旗林立凱風翩 供奉装船蔽海連 拝観御生祭有感 秋季大祭海上神幸 田 橡雨

(=)

史と文化との結晶であり、その語

伊勢の神宮こそ、日本民族の歴一イマックスともいうべき遷御大祭一ところの民族共同の信仰であり、

に至るまで、無数の祭冊儀式の積 逐豊麗さは、まさに「民族の祭典

た。

世界観であり、生命の秘儀であっ

るが関係ないのだそうだ。 たのではないかと感じる向きがあ つづく

な子供は同じ日本にいて可愛そう。ると、子供達が遊んでいる。立っして路を歩くのである。

りかけることばは、干古無言の中一み重ねであり、その森厳豪華、幽

にとんな大きい音声よりも強く民

伊 神宮司庁教学司·神宮皇学館教授 勢の式年遷宮祭

掛

正

浩

日々不断の祭祀が行われているこ

伊勢神宮は生きている。それは

御移スルコトノ心組デ考へテハド ノモ如何カト思フ故、信州ノ方へ | 従って伊勢神宮こそ、実に日本民 此ノ辺宮内大臣ト篤ト相談シ、 自分ノ考へデハ度々御移シスル の御宸念の中に拝するもの、神器 とに於て、何人も実感している事

族にとって至重の宝と言わねばな

実である。

たちに於て伝えているものこそ、

だが、この実感を最も壮大なか一を食う生活を開始して以来、烙久一干数百年という伝統の古さの故の

民族が、この国土に、稲を作り米

てきた質のつくしではなく、日本

所謂支配層のものとして行われ

天武天皇の立制にはじまり、次

職員プロフィール

東京の国学院大学史学科に入学、

そうである。

末安大孝

神道学科へ転部。こうゆうと大変

オヤジの命令やで神主になるべく 佐賀県の産で、三養基高校を卒業 だが、未だ候補者はなく独身。 御年二十六才と云うことになるの

ず、懸命に考えた後の事なのだそ 主体性がない様に聞えるがさに非 しかも、この大様なる営みは、

一と呼ばれるにふさわしい。

遷宮祭は始まつてい

ほかならぬ二十年に一度の式年遷|離れぬ意味での常民の道俗であっ

シテ、運命ヲ共ニスル外ナイト思 べき言葉を知らぬ。この今上陛下一を拝し、伊勢の神宮に及んだ。 覚悟、ただただ感涙のほか、申す イ。万一ノ場合二ハ自分ガ御守リ 政府トモ交渉シテ決定シテ貰ヒタ 戦局非常の日に於ける至尊の御 鹽ンデ挥承。云々。 として、私は、今上陛下の御宸念 | 宮無双の大営」と称せられただけ | 共に自らの命を更新し、一新する | せられてゐる。 ことはない、ということを言おう。このお祭は「皇家最大の重儀、神」らにたべることにより、その神と | ない宝さへ、しっかりと胸に抱き | 二十年に | 度新しく御殿を改り替 | 祭と呼ばるべきものであった。 悲境に沈価しょうとも滅びる

しめてゐたら、たとえどのような一え、神儀をこれにお移し申しあげ

る祭典をいうのであるが、古来、

新しい年の稲穂を神に捧げ、又自

はすでに昨年の山口祭を以て開始

一族のいのちを無窮に、常若に生か

しつづける最大の秘論(鍵)で

加するオリンピック精神の持ち主

りもなほさず嵐に耐えて、我が民

たのは本年六月あやめの咲く頃。

特別な趣味はないが、何でも参

四十八年に執り行われるが、それ

第六十回の式年遷宮祭は、昭和

念々に護持しつづけることが、となって欲しくなり、九州へ西下し

遷宮を憶念して忘れまい。それを | 間、 殴々仲良しが魚でなく人間に

禅寺湖の魚と仲良しになって四年

振り出しは日光二荒山神社で中

実に、それは、我々の祖先が、

八年前に始まる山口祭から、クラー

という、いつの程よりか得てきた

我々は、この「生ける宝」式年一あると思うが故に。

一の民族にとって、かけがへの 遷宮祭の本義

宮祭である。

式年遷宮とは、周知のごとく、

**管祭を大規模にしたもの、大神** た。言うならば、それは年々の神 にもち伝えてきた暮しのしくみと

史の中に如実に息づいてゐる君民遠の文化として結実し開花し、歴

む。両親が親孝行を期待して付け

大孝と書いて「ひろたか」と読

一体の宝たるが故である。

するが如く、民族の生命観が、悠

みで尊いのではない。それは上述 た二十年一度の遷宮制度は、その の持統天皇の御代から開始せられ

出光佐三一問一答シリーズ 3

めにやっていた。或るとき、そこ、ぼくに対する郷里の非常な恵みだ おばあさんなんかの年寄りが集ました。それがぼくにとっては、非常 き、法念寺というお寺にしょっち、外国思想のいいところは見せられ って、何々講というのを親睦のた。によかったと思っている。これは \*う遊びに行っていたが、そこで ず、悪いところを見せられて育っ をいじめていた。そんな姿を見て|権利思想というものは悪い、とい よっな悪い人が、五、六人おって一悪い点のみを見せつけられたわけ ところが一方、酵風美俗のその地 | 外国の自由思想・権利思想の人だ | たと思っている。 法律をタテにとって善良な人たち一だね。そこで、外国の自由思想・ 一例をとれば、ぼくは子供のと日本のよさを教えられると同時に うことを深く頭に植えつけられて った。 しまった。こうして子供のときに よと聞いていたので、外国思想の 理とか、人情を交じえるのは邪道 潮があって、金儲けのために、義 売は金さえ儲ければよいという風 けた。というのは、そのころは商 当時としては、画期的な教えを受 業は金儲けではないという、その えられた。また内池先生には、事 は愛によって育つということを教 に指導されているのを見て、人間 学生や、若い先生方を実子のょうたかな。 長が家族温情主義を唱えられて、 たわけだが、そこで水島銕也校 それから神戸の高等商業に行っ

なにか雛がらせにきて言ったんだ | たくを非常につつしんで、そして | をして、売り惜しんで、金を儲け | っていたときに、学生時代から懇 | ってやめさせなかった。このやめ くをつつしみながら、一生懸命働)たんだ。創業以来の出光の消費者「を貫け」ということであった。そ
た。やりかけたことは、事の如何にして、忘れんとして忘るあたわ 母を想い出すときは、働いている。えられ、ぼくはそれを聞いて、こ」なければ、営業報告もいらない。 たりなんかすると、とてもやかましいう時代に、内池先生が、事業しての金は貸すのではなくて、や |人に施すことは厚かった。 ぼくた | る、そういうチャンスをとらえる | 意にしていた終路の日田重太郎さ | させないということが、今では首 しく言われた。八十才の現在でもの社会性という画期的なことを教るんだ。したがって、利子もいら それからはくの家庭が非常によしされ、人に迷惑をかけようが、 本位とか大地域小売業などは、そして「金を貰ったことを他言する |れて、そ自分の進むべき道たと決め||家族兄弟仲良くして、自分の信念||ことをやめた人は、落後者であっ||代としては、努力、辛酸の長時日 |ちばん偉いことになっていた。そ | た。そのときの日田さんの言葉が 人が偉いんだということになって一んという人が、自分の別荘を売っ一を切らない、定年制がない、とい とは平気だった。投機・買い占めて、なんとか早く独立しようと思 れなんだ。 自分の人格を落そうが、そんなこ いたから、投機業者が事業家でいて、当時の金で八千円を与えられ それから学校を出て、二年間丁一いわゆる東洋の陰徳の教えであり一あった。このやめさせないという一きなり。

生懸命働くことを教えられ、怠け に叱られた。そして一方では、一

> 里の実家が商売で行き詰まったの えからやったんだが、今から思え ば、学問や理論の奴隷になってい なく、何事も小さいことからやっ ておかなければ、という簡単な考 深い理屈とか、理論などからでは からは、けしからん、学校の面汚 稚奉公をしている。当時、神戸の しだと言われて開置讒謗されたも いうことは異例のことで、同窓生 高商を出て
> 丁稚奉公するなどと 丁稚奉公をしているうちに、郷 | ぼくの人生に対する非常に大きな | ことが「人の世界」のあり方であ

な」とつけ加えられた。これは、

教訓となった。

なかった、ということではなかっ一稚を雇つときに、学校出の人はこ のである。しかし、これはなにも一て、明治四十四年六月(五十四年 この日田さんから貰った金をもっ 前)、門司に出光商会を開いた。 に恵まれて育ってきたわけだが、

生、落後者になるから、愛情をも る機会に、あらゆる万法をとって も、やめさせたら、その子供は一 難関にぶつかってやめようとして 母さんに代わって、この子を育て と言われたとき、ほくは「このお ない子供を採ることにした。その 家庭の事情で、上級の学校に行け 互いに助け合っていくような店に 出光商会も、皆が仲良くして、お そこでぼくがまず考えたことは、 れて「どうかこの子を頼みます」 ないから、素質は非常にいいが、 したいということだった。まず丁 とき、お母さんがいっしょにこら

うことを言っている。

したちは鉄格子の間から掌を差し

しかし本人としては、自分と比較

いの」というと、ちらっと見ただ の子は生の大根をかじっている。 女の子が一人ただずんでいる。そ

奇異を感じる。ゼンバンは主とし あるが、股間にひらひらとこのゼ

創業十周年記念日を迎えて

(大正十年)

の姿は乞食である。この玉蜀黍は一みじめとも思っていないだろう。 出してもらったものだが、全くそしする都会の子もいず、別に自分を

この子が大きくなって都会に嫁に

そのころは、いったんやりかけた 言うような「搾取する」などとい ればならないという考えが一般に 助けて育てていこうと考えていた うことになっている。マルクスの

こういうふつに、ぱくは、非常一ろがあれば、転々として移って行 く。そこに「人の世界」と「物の るが「物の世界」では有利なと

世界」との根本的な相違があるよ 以来、出光は大家族主義で、皆

子供を育ててきた。子供がなにかの騒針盤が出来た。迷うな」とい よう」と思った。そして、あらゆに、人間が中心であって、人間本 くが創業十周年のときに言った 位であれば間違いないという将来 生この方針でいいんだ。十年の間 だろう。あれを読んでみると「一 っきりと認識した。だから、ぽ る間に、やはり日本の道徳、伝統 ことが、店の方針となり、 言葉が『人間尊重五十年』にある 方法がよいのだ、ということをは 人を中心として一致団結していく が仲良く助け合っていく、という もなってきたのである。 そういうことで、ずっときてい 玉蜀黍と半半であった。時に、玉 係の囚人が「マウ(要る)か」とる。この子を神様がごらんになっ いって、鉄格子の傍を通る。わたたら涙ぐまれるかも知れないが、 蜀黍だけが残ることがあり、炊事<br />
けで無心に生大根を噛み続けてい が支給されていたが、それが米と一訊くのもまずいと思ったが「うま 押さえつけて茶碗一杯ぐらいの飯 タン刑務所に入れられていた時、

わたし達が戦犯容疑者としてメ

は遊んでいる。とみると船の影で出したものを、その女児の局部の

おく。フギスの児童は殆んと裸で

前に紐で吊して腰に巻いて結んで ンパンと呼ぶハート型の銀を打ち なると、一定の儀式があって、ゼ 程である。女の子が歩き出す頃に めしばしば流血の惨事をひき起す

そ だち

つづき

の文化施設もない。浜辺で子供達

という。山が迫っているので、帯 論のこと、農作物も育たず、なん

状のざらざらした砂丘で、米は勿

かって樺太から引揚げた人が多い

婦女の貞操や処女を護る。そのた

セレベスのブギス族は厳しく、

ないである。

しているが、それはほんのおまじ

を問わず、終始一貫やり通さなけ「ざる追憶の対象にして、またもっ」である。まあこれは身から出た錆「落に往診に行った時に、影察を終 う考えは毛頭なく、なんとかして一同の同慶とするところなり。 て来たるべき十年の羅針盤たるべ 年、大正十年六月二十日をもって一らっているのをみてたが、あの頃 駒過隙の一瞬なれども、創業の時 創業十周年記念を迎うること、 揚げ星霜を経ること、ここに十 において、出光商会は創業の声をなかった。終戦前、当隊の馬が大一行ったら、店で生大根を見るたび 回顧すれば、十年の長年月も白 明治四十四年六月二十日、門司 | 茹でてあるだけで、塩も入ってい と思えばそれまでだが、次のよう。えて部落の路をぶらぶら歩いてい きず、しかも塩も入っていないの の作業地点、ケニヤランという部 でさえ腹いっぱいもらうことがで が、現在のわが身は「その玉蜀黍 だ」と気の毒がってもみたものだ | 鍋に、玉蜀黍をいっぱい茹でても | に懐しい思い出と愛着とのために | のを代りに巻かすのである。 昔 は、「馬てえ奴あくだらねえもの 喰ってやがるなあ、気の毒な動物

た夢である。

ゼ ンパ

わたしがブランケジャランの次

対することすら厳しく禁じられて

いるが、外出の場合はポポンと呼

ぶ布で顔を包んで、眸だけを出し

殆んど監禁同様にして、異性と相

してからは、急に屋内の奥深くに ナダラーつまり一人前の女に成熟 べては育ちであり、その育ちもま一夫たるべき花婿によって始めて取

が現在では、まずみられない。アりはずされるという風習であった

しばしたたずむことであろう。す

は、このゼンパンは結婚式の初夜 取りばずし、蝋染の腰巻ようのも とアナダラと呼んで、ゼンパンを 一である。女子に月の変化が始まる その技巧なども相当に精巧なもの に
唐草模様を
打ち出しているが、 製も見かける。その表面には恵明 て銀製であるが、なかには銅や鉄 ンパンを下げて遊んでいるさまは

宗像藪庵先生百話 方 南 華やかなり

郎

だけの粗末な家ばかり。これで寒 どれもが組けずりの木材で囲った一としている時は、うまくホーを隠 軒と人家は点在しているが、その 麓の、あちらに一軒、こちらに二

宗 と首をかしげる。住民の中には、 風吹きすさぶ冬が越せるだろうか

でのことである。道路を挟んだ山

るものをつけている。ゴムを構型

に切ったものや銀貨に穴をあけて

紙を通し、腰に結んでいる。じっ

これは我が国の最北端の宗谷岬ると裸だが、ホトのところに揺れ

たり蹲んだりしている女の子を見

我楽苦多告知板

通して買ったのが本紙 パブリカ。 !この一念見事に貫き に紹介しているニュー あゝ新車に乗りたい

的は流行の新車。 勤倹貯蓄。 M 氏の目 〇爪に火を点す思いで 目指すカー雑誌を真っ先に読んで っばい」ともちかけ会費を徴収、 詳しくなれるヨ、お面白い話がい

年式は昭和十五年型、逆算すると一参の上どうぞ。新車のコロナを持 っているので、ドライブにもいく ら御希望の方は履歴書に写真を持 目下、お嫁さんを探しているか 理難題、とうとうセールスマンが あれを付けろ、コレを付けろと無 のでなかったと慨嘆した。 ネを上げて、あの人には車を売る ところが、最近トヨタがカロー 買う迄が大変、セールスマンに

〇「〇〇モーターファン」とか云 たY氏、車を持っている職員一人 う月刊カー雑誌を読みたいと思っ るとか云うお話。 事か」と目下カンカンになってい 」「たった二ケ月で中古車とは何 「あなたの車はもう中古車ですよ 一人に「月にたった四十円で車に

替えたいとセールスマンに申し入 れたが、かの時、セールス氏日く ラを新発売。急遽カローラに乗り